

0-1

新型コロナウイルス禍における看護専門学校へのメンタルヘルス・ケア

○野口 幸子、阿部 洋子

獨協医科大学附属看護専門学校

コロナ禍にあり、収束が見えず、国民全体が、感染拡大予防のために自粛生活を強いられておりストレスが大きいことは周知の事実である。本校は、医療施設内に学校があること、看護学生として必要な知識・技術を身につけるための講義・演習・実習があり、自粛生活が強く望まれる。そのため、ストレスも大きいと考えられ、メンタルヘルス・ケアが必要となる。委員会では、学生の身体的・心理的な状態を理解したメンタルヘルス・ケアが必要であると考えた。そこで、本校のメンタルヘルス・ケアの現状を教員が日頃実践しているケアと『学生生活アンケート』の結果を踏まえて、課題と今後の解決策について検討したので報告する。

*キーワード：コロナ禍・看護学生・メンタルヘルス・ケア

0-2

コロナ禍における教育の質転換を目指して

○萩原 旬子、佐山 美加

獨協医科大学附属看護専門学校

2020年から始まったコロナ禍において「オンライン授業」を行うにあたり、教育の質を担保するための取り組みを行った。その結果、オンライン授業でも、アクティブラーニングは可能であること。また、オンライン授業と対面授業の教育効果を考えて組み合わせたハイブリッド型授業は、効果的な教育手法であること。ハイブリッド型授業に、アクティブラーニングを取り入れ、反転授業を全面的に導入することで、主体的学修姿勢が養われることが分かった。

今後の課題として、教員間の ICT スキルの向上、反転授業における事前学習としてのオンデマンド型授業動画作成、ICT 技術を駆使した演習や実習における看護援助の複雑なプロセスについてどのように教えていくのかを検討していく。

*キーワード：コロナ禍 ハイブリッド型授業
アクティブラーニング 反転授業